



(一社)日本ボーイスカウト神奈川連盟 川崎スカウトクラブ

目次

桜よもやま話	1	御苑の桜・浜松城の桜	2
駅チカの桜	3	二ヶ領の桜は世代交代・神代植物公園お花見ハイク	3
ジャンボリー物語	4	B-P 卿のふるさと	4, 5
地名について	6	初旅「能登の思い出」	7
活動報告・編集後記	8		

[桜よもやま話]

渡部 公

桜の「サ」稲の神を「クラ」は神の座を意味し、桜は古代より「稲の神」が依るところであり、農民の信仰の対象でありました。稲作を始める時期に花が咲くため暦替わりに使ったとも伝えられています。

富士山頂から花の種をまいて咲かせたとされる「コノハナサクヤヒメ(木花之開耶姫、富士山の守り神)のサクヤから“桜”になったとの説もあります。

ヒマラヤ原産で7世紀頃中国より伝播して、日本に自生する9種の野生種、野生種を交配した種(園芸種)を含めて約400品種が確認されています。華やかに咲いて間もなく散って、花吹雪が舞う様は日本人の精神を表していて、皆に愛される所以とも言われています。

代表的な「ソメイヨシノ(染井吉野)」はエドヒガン・オオシマザクラの園芸種で、江戸時代末期に東京・染井村(JR山手線巣鴨駅辺り)で誕生して「吉野桜」で売られましたが、奈良県の「吉野桜(山桜)」と混同するため、明治期になり「ソメイヨシノ」と命名されました。

バラ科桜属で、挿し木で増やされるため全国に広がり、桜の名所と言われる地域の7~8割が同じクローン(分身)のため「開花標準木」に決められています。

東京の標準木は靖国神社能楽堂の傍にあり、5輪以上咲くと気象庁から「開花宣言」が発表されます。

「ソメイヨシノ」の開花は日本の南からから順に北に向かいます。近年は地球温暖化の影響から、年々早く咲

き始める傾向にあります。

今年も3月初めに「ワシントン市の3,800本の桜が満開になった」とのニュースが流れました。

ご存じの通り、1912年(大正元年)3月東京市長の尾崎行雄氏から日米友好の印として桜の苗木がワシントン市に贈られたのが最初とされています。その後何代かに亘って贈られて現在の姿になっています。

2001年7月、ボルチモア市を訪問した際にホストファミリーにワシントン市ポトマック河畔を案内してもらいましたが隅田川の桜並木と同じ様に古木の見事な桜並木でした。(勿論花はありません)

この為には「ポトマック河畔に日本の桜を！」と熱心に運動を続けた「エリザ・シドモア」女史がいました。旅行作家ですが兄が外交官で東京にいたため、来日して隅田川で桜の見事さと花見を楽しむ庶民の姿に感動して、埋め立て工事が進んでいたポトマック河畔に桜を植えることを考え、知己のあった第27代タフト・ウィリアム大統領ヘレン夫人に提案をしました。紆余曲折がありました。3年後に、前記の東京市からの寄贈が実現しました。日本側では、日露戦争でロシアとの講和にアメリカが仲介して呉れたお礼を込めて、実現させたようです。現在、「エリザ・シドモア」女史のお墓は、母親と兄が眠る横浜山手の外人墓地にあり、ワシントンから里帰りした桜が植えられています。この里帰り桜は「シドモア桜」と呼ばれ、横浜元町交番横や鶴見川遊歩道に現存していて、地元の桜愛好家が手入れ・管理をしています。

## 〔御苑の桜〕

井村 修治

新宿御苑の桜は見事だ！ぜひこの桜を満開の時期に見に来てほしいものである。

ところで話は飛ぶが、江戸時代中頃、例の悲恋物語の振袖火事は思わぬ大火事となり、その被害は甚大で、不幸にして多くの方が亡くなったそうである。

「たま屋！かぎ屋！」で有名な墨田川の花火は幕府の発案で、多くのこれら犠牲者を鎮魂する為に始まったと言われている。八代将軍の頃の事で、さらに隠れた目的があったともひそかに喧伝されている。

大川（隅田川）にしろ、文字どおりの荒川にしろ、多摩川にしろ、江戸湾に流入する川はみな暴れ川で、その治水には手を焼いたらしい。そもそも江戸の下町は埋め立て地だから、洪水の被害は毎年の事であったらう。

治水の決め手は高く、強く踏み固めた丈夫な土手、堤防だ。手短かに土手を踏み固めるにはどうしたらよいか？ そうだ、盛り土をした土手に多数の人を呼び集めて、踏み固めさせよう！花火大会の開催は土手の踏み固めの為の人集めにあったというのだ。これが話の通りならノーベル賞級のアイデアである。さらに春の桜だ、土手は花見客によって、速やかに踏み固められていった事だらう。そういえば土手に桜は春の風物詩で絵になるし、土手を丈夫にする方策とは恐れ入り谷の鬼子母神だ（恐れ入りました）。ところが、逆にこの踏み固めでおおいに迷惑したのが新宿御苑の桜たちだ。

多くの花見客に踏みしめられて、御苑の桜はその樹勢を落としてしまったのだ、枯れそうになってしまったのである。踏み込みの圧力で根っこが傷んでしまったのが原因だそうである。自然はなんでも慈母のごとく許していただけるようでもあるが、その実は繊細で傷つきやすいのだらう。

私たちボーイスカウトは自然を教場とさせて頂いている。この点に十分注意して自然に接しようではないか！ところで、立ち入り禁止区域の設定や樹木医の努力で、見事再生した御苑のソメイヨシノは見事だ。

ついでとってはなんだが、大木戸門、かつての正門にある信州高遠桜も見て帰ってほしい、地味だが一見の価値はある。



## 〔浜松城の桜〕

小川 芳郎

孫の通った小学校は浜松城の隣にあった元城小学校であった。運動会では、騎馬戦の代わりに三方ヶ原の戦いが代々演じられる。家康が駿府に本拠を移すまでの在城期間は29歳から45歳までの17年になり、その後代々の浜松城主から幕府の要職に就いた者が多く出たので、別名出世城と言われる。私が滞在中、浜松城桜祭りがあった。浜松城公園は桜の名所だけに花見客で溢れ返っていた。城に桜をどう取り入れるか嬉々として写真を撮った。また、浜名湖の北、姫街道にある細江町気賀は関所があったところで、4月の姫様道中祭りに行った。遠州鉄道気賀駅南側の川沿いの桜並木は満開で、私たちは清水屋のうなぎを味わったのち、たくさん露店が出て賑わう河原の広場に出て、姫様道中の一行が到着と同時に始まる矢絰を着たお女中による踊りを見学した。赤い矢がすりの着物が桜と相まって美しく印象に残った。





## 【駅チカの桜】

稲葉 正明

2月29日、4年に一回のうるう（閏）日に川崎スカウトクラブの編集委員会が開かれた。今回はテーマが桜と決まったので、翌日、駅前の道路沿いに咲き始めていた桜を見に行った。行き交う人が立ち止まって写真を撮っていた。私もその一人になった。駅チカの桜は、

駐車場の西側斜面に立っていて、陽光に映える桜花、枝の緑、そして陰った斜面の土色が見栄えのするコントラストとなって、この時期は駅周辺のランドマークのようになっている。後ろにはマン



ションが建っていて、住んでいる人は早咲きの桜を觀賞することができて、嬉しいことだろうと思った。1年のうち僅か2週間程度だが、不動産の価格もあげていることだろう。駅にも近いし、。

インバウンドの旅行者が日本各地で桜の美しさに感動し、桜を背景にして写真を撮る姿がマスコミで紹介されている。桜は春の定番テーマの一つとして雑誌や飲食店の季節限定メニュー、など、いろいろと取りあげられている。桜の開花時期は年によって変わるが、1月の沖縄から始まり、東北地方や北海道に達する5月まで、およそ半年間の長期にわたる。桜は国花としての象徴的な意味に加えて、GDPへの実利的な貢献もしてくれていると思う。

春の和菓子と言えば桜餅が頭に浮かぶ。桜茶も有名だが、こちらはおめでたい席を除くとほとんど口に入らない。少し濃い塩味が思い出されるが、桜餅にも塩漬にした桜葉の風味が欠かせない。桜葉は裏に産毛がなく、「クマリン」という芳香成分が豊富に含まれている。この桜葉が取れるのは「オオシマザクラ」という品種だけで、西伊豆の松崎町が全国の約7割を生産している。1月下旬から2月上旬にかけて枝が剪定され、その後、5月上旬から8月下旬までの間、葉が丁寧に摘み取られていく。全国で桜の開花が話題になる時期に、伊豆で桜

の生産が始まることは春の暦に加えておきたい。

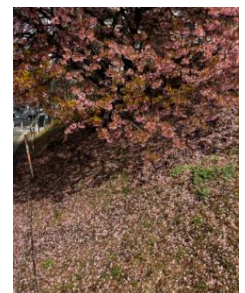
桜餅と並んで「サクラ」を冠した洋菓子もお店で売られている。サクラマシュマロ、サクラマドレーヌ、サクラクリームサンド、など、賑やかである。カタカナを使うとハッピーな気持ちになるのは、文字を使い分けられるからだ。漢字で「桜」と書けば、幹と枝、花、そして葉がひとまとまりのものとして目に浮かぶのに対して「サクラ・・・」はハイカラだが、何となくぼけてしまうように感じる。桜は植物学上、バラ科に属しているので、カタカナ表記も理にかなっているのかも知れない。

植物学者の牧野富太郎博士が新種発見と分類名に心血を注いでいた昨年の朝ドラのシーンが思い出される。

お店で「サクラ・・・」という名の洋菓子の成分をチェックすると、桜のエッセンスが使われていることが分かる。この季節に桜餅と一緒にお店の棚に並べられているのだから、季節菓子としては仲間どうしになるのだが、このことが“さくら”の起原ではないか、などと解釈するのは間違いだろう。

30年ほど前に家族で松崎町に出かけたことがあった。東名高速沼津でおりて、国道136号線を南下するルートだったが、その途中、満開の河津桜の下で地元の人たちが車座になって楽しそうにしていた。車を止めて少し遠くから眺めていると、こちらに来れば、と手を振っていただいたことがあった。桜のエッセンスが作用した不思議な力かも知れない。このルートはお気に入りになった。松崎町では発見があった。私事のトリビアな話だが、松崎町には稲葉という表札のお宅が多かった。宿泊先の方に、稲葉という名前は川崎では少数派です。と話すと、「川崎なら金刺不二太郎さんを知っているでしょう?!」と嬉しそうな声が返ってきた。「川崎市長だったあの金刺さんですか?」と聞き返すと、「その金刺さんは松崎町の出身ですよ」とニコニコ顔で言われた。

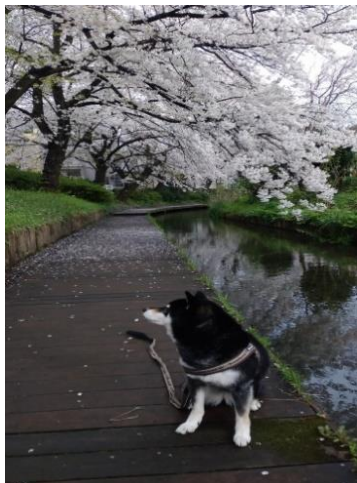
駅チカの河津桜は10日ほど経つと散り始めたが、地面には見事な桜絨毯が広がっていた。満開の時には気づかなかったが、散華した桜花が、地面の下から桜木を支えている根の事を思い出させてくれた。(松崎町の桜葉の話は2021.5.15新聞記事を参考)



## [二ヶ領用水の桜は世代交代]

今村 文彦

二ヶ領用水の樹齢40～50年を迎えていると聞く、



この老木が今年も精いっぱい花をつけてくれました。中には強風で、水に倒れてなお、最後の花を咲かせています。今年は花見客の出が例年の賑わいを取り戻して、心なしか、桜花も誇らしげに見えます。

老木の隣にはぼつぼつと若木が植えられ、次の世代を支えようとしています。

## [神代植物公園お花見ハイキング]

行事部 小川 芳郎

実施日：令和6年3月28日（木曜）曇天 参加者7名  
調布駅、神代植物公園内の桜園から深大寺、布田天神社、調布駅のコース。徒歩距離5.9km。当初の予想から開花時期が大幅に遅れて、園内のソメイヨシノは1本も開花していない中、大寒桜数本の開花と神代曙桜が一本満開であった。神代曙は神代植物公園で見出された桜の品種でソメイヨシノより花色が濃く美しいピンクであった。この桜の傍らにあったテーブル席に全員が座り、弁当を食べながら、おかずを分け合い和気あいあいと花



「神代曙桜」

見を堪能した。また、深大寺門前の茶屋で花見団子を食べ休憩した。この日、佐藤道夫さんが当クラブのために作ったマークを彫り込んだ木彫り板を持参してくれたので、早速桜の下の集合写真に用いた。



## [ジャンボリー物語]

### [第12回日本ジャンボリーの思い出]

寄稿 田島 宣彦（派遣第2 隊隊長）

26年前、次男が中2の時に一緒に参加しました。その次男も今や40歳。私の怪しい記憶を手繰り寄せる作業では、甚だ心細い限りではありますが、印象に残っていることを2つ3つ挙げてみたいと思います。

第12回日本ジャンボリーは、1998年8月3日から7日にかけて秋田県森吉山麓で行われました。この地域は阿仁町というマタギの里として有名な山深い場所です。

実は私の父方が秋田県角館の出ということで未だに親戚が角館におります。12NJの隊長に決まった後、家族で親戚の家にお邪魔しながら、下見にも行きました。その時にジャンボリーのあらましと2万人以上（実際には26000人）がバスで参集することを伝えると「あそここの山にそんなバスが通れる道は無い」とのことでした。実際下見の段階では普通乗用車がやっとすれ違える程度の道でしたが、本番では数百台のバスがスカウト達を運びあげました。しかも一方通行でスムーズに。当時関係者の話として、皇太子殿下（現天皇陛下）が来られるので皇室予算で道路を整備したとのこと、真偽の程は定かではありません。

私たちは、8月2日の午前中に現地入りしました。





約 13 時間のバス移動。とはいえ、11NJ で大分の久住高原へ 25 時間かけた移動経験のある身としてはそれほど堪えたわけではありませんでしたが、スカウト達は結構堪えていたようでした。ほとんど寝ていましたが。

現地に着くと外は雨。ほとんどのスカウトの雨具はバスの床下のトランクに収めたリュックの中。バスがゲート前の渋滞中に床下に収めた荷物を引きずり上げ雨具を着用させたことを思い出します。大会期間中現地では、ずっと曇天で時々雨降りといった印象でした。

同行頂いた副長が 22 団の唐戸さん。唐戸さんは、食肉関係の会社に勤められていた関係で、大会期間中大変おいしい食事を頂くことができました。有難うございました。現地ではモンゴルから来たナランバットとムクトゥー（性か名かは不明）という高校 1 年生を預かりました。どちらかが多少英語を話し、あとは身振り手振り。それでもスカウトとはすぐに馴染んで楽しく生活を共にしていました。竿灯まつりの実演、CW ニコルさんの挨拶、帰りには安比高原の大きなプールで 1 週間分のアカを流したことなどを思い出しました。思い出に乾杯！



## [B-P 卿の国]

寄稿 土志田 明子

私が観光で初めてロンドンを訪ねたのは 1975 年。バッキンガム宮殿、衛兵交代、ビッグベン、トラファルガー一広場など、どこもきらびやかで心躍る数日でした。

ホテルに帰ってテレビをつけると、ニュースやドラマの合間に繰り返し繰り返し、「あなたが肌の色、髪の状態、言葉の違い、宗教、民族の違いによって差別を受けたり、不当な扱いを受けたと感じたら、00000 の電話番号に連絡をしてください。」とアナウンスがありました。今から 50 年近く前のことです。

日の沈まぬ帝国に莫大な富をもたらした植民地支配は、同時に、後の世代にたくさんの宿題も残したのでしょう。近年、日本にも世界各地からさまざまな民族、宗教、言語、肌の色の人々が仕事、観光でくるようになり、差別や偏見、不平等に対する気付きや対応策が少しずつとられるようになりました。1981 年冬、主人の仕事で私達は、西アフリカのナイジェリアに住んでいました。

長男が一歳になった頃、ひどい下痢が治らず心配な状態になりました。ちょうど半年毎のメディカルチェックが近かったので、三歳の長女含めて家族四人でロンドン行き飛行機に乗りました。北緯 6 度、熱帯のラゴスから 7 時間北に飛ぶとロンドンに着きます。医療環境の整った国に着いたことでほっとしたもの、ウイルス感染症のラッサ熱やエボラ出血熱の発生地域からの、下痢が主訴の幼児の受入れにはやはり難色をしめす病院が多く、朝一番で行った私たちを受け入れてくれる病院に着いた時はもう夕暮れになっていました。

息子はちょうど一週間の入院でした。一本の注射も点滴も投薬もせず、自然治癒力を信じて時間をかけてくれた医療でした。さらに私たちを驚かせたのは、病院が一切費用を取らなかったことでした。

1721 年創設のこの「ガイズホスピタル」はその後何度か建て直されて今もロンドンの基幹病院の一つとなっているそうです。「ゆりかごから墓場まで」がイギリスの社会保障の理念であったことは社会科で学んでいましたが、このように現実に体験すると「すごいなあ」と感心してしまいました。後年、さすがのイギリスも深刻な財政逼迫のため、「旅行者もイギリスの客人」として医療費をとらない、という方針は変わったそうです。

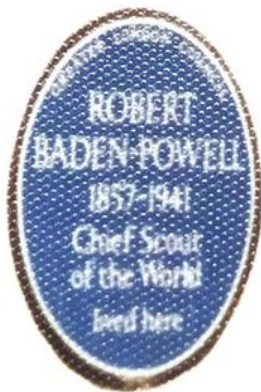
息子にはこの時のことをよく話して人生のいつか、どこかで恩返しをしてほしいと思っています。

ラゴスに帰る前、ほとんどの時間を病院で過ごした息子と私のため、夫はロンドンの街をレンタカーで案内してくれました。夫は、この 6~7 年アフリカ担当で出張の行き帰りの度に、この街を数十回歩き回っていましたのでよく知っているのです。ある家の前で車が止まりました。著名人や重要な出来事にゆかりの建物にはめられているブルーのプレート（ブループラーク）がありました。Robert Baden Powell 1857-1941 Chief Scout of

the World lived here と読めました。ベーデン・パウエル卿の住んでいた住居でした。大きく立派なイギリスらしい家でした。兄からよくボーイスカウト活動やB P卿について聞いていた私たちにとってここは特別な場所でした。今日、世界は分断の時代といわれ、あちこちで紛争が起き、憎しみと悲しみが広がっています。大英博物館の宝物にも各国から返還運動が起き、植民地政策に対する賠償要求の動きもあると報道されています。

冒険者たちの像は倒され、英連邦の国々の国旗からユニオンジャックも消えていきました。B P卿は、大英帝国が最も力をもっていた時、軍人としてインド、南ア、中東などで活躍されたとありました。ボーイスカウト運動を創設されたのも多様な民族、宗教、人種、文化、習慣、階級や経済格差、などの現実を前に、これからの世界を平和に導くためには、若い子供たちに互いの違いを敬い、力を合わせて生きていくことの大切さを知ってほしいと思われたからなのでしょう。

私たちが常に自分自身の中に偏見や差別意識がないかを点検し、子や孫に偏見や差別意識を植えつけない努力が求められていると思いました。(小川芳郎会員妹さん)



## [地名について]

谷本 通安

川崎市が本年、市制施行 100 年を迎え、節目にあたり、33 年前には発行した「川崎の町名」の改訂版作業に携わったり、K S C 年次総会で地名研究所事務局長・菊池恒雄氏に「地名の由来」の講演を戴き、地名の持つ歴史的背景等の奥深さを再認識しました。

地名が誕生したのは人類が地球上に登場し、言葉を操るようになったのと、ほぼ同時期ではないかと推測できる。

他の動物より力の弱かった我々の祖先は助け合いながら共同生活を営みコミュニティを形成したと思う。

その生活範囲が拡大すると共に特定場所を示す具体的な名称が必要となったことが十分考えられ「あっち」「こっち」ではその場所・位置を正確に伝えることが出来ない為に、そこから誰にでも分かる符号の様なもの、それが地名の始まりではないかと推察できる。

特に食糧・獲物の得られる場所の情報を仲間に詳細に伝える必要があった。現在地名の多くは由来が判明していないのが実情で、特に古代からの地名の殆どは解明されておらずと言うのも地名が発生した当初はまだ文字もなく、人々はその土地の目印となる名称を専ら音声で伝え合う所謂口承地名であった筈で、後世になりその発生音を文字に当てた。初めは地名の意味する漢字が使用されたが年月の経過と共に次第に転訛して行ったり、土地の権力者によって「気に入らない」「縁起が悪い」と換えられた可能性が無きにしも非ずと考えられ、その文字からだけで地名の由来を遡ることはできない。

昭和 37 年(1962)施行の住居表示法に基づく住居表示制度によって数百年の間、脈々と受け継がれてきた伝統的な由緒ある地名が消失したことが残念でならない。

地名は地域の歴史や文化を伝承していく上での尊重すべき無形文化財で大地に刻まれた索引であり、大切に保存すべき価値があることを意識し関心を持って後世に残すことに大きな意味がある。



## 初旅 [能登半島の思い出]

高安 征夫

2024年(令和6年)1月1日新年のお屠蘇の酔いもさめやらぬ午後4時10分、突然襲った能登半島の地震、一瞬にして地獄絵のような惨状となり多くの人々の運命を変えることになってしまいました。

そんな能登と言えば私にとって忘れることが出来ない思い出の地で、1965年(昭和40年)8月、松本清張の小説「ゼロの焦点」に魅せられて、未知の地を訪ねたく友人と二人で人生初の長旅に出ました。

当時は今の様な「ツアー旅行」などなく、個人旅行で定められた“周遊地”を2カ所以上回れば交通費が割引になるという制度を利用してコースを決めて、時刻表と地図を手に夜行列車で東京を発ち、夜明けに福井駅に到着。先ず早朝の“永平寺”へ、まだ残る朝靄の山中で厳粛な参拝でした。参拝後の次の目的地は東尋坊、連なる奇岩と初めて見る日本海、どこか太平洋と違う海の色に感じたのを思い出します。次は“嫁脅しの面”を祀る吉崎御坊から山中温泉へ。翌日は“安宅関”跡を経て能登半島へ、先ず羽咋市役所を訪ねました。

当時、能登半島のPRを兼ねた名所巡りのスタンプラリーが実施されていることを知り「挑戦しよう」と集印パンフレットを貰いに市役所へ。いよいよ能登の旅に出発。スタートは近くの“気多大社”続いて“妙成寺”、そして今回の旅のきっかけとなった「ゼロの焦点」の舞台となる能登金剛へ。荒々しい断崖に打ち寄せる白波が印象的でした。そして「総持寺祖院」を巡って今日の宿、輪島へ。初めて能登半島に入って気付いたのは古い家が多く、どの屋根も黒瓦で湿気を防ぐ釉が夏の日差しを照り返していたのが北陸地方に来たなという第一印象でした。翌日は名物の「輪島朝市」を見ながら輪島港から50kmに位置する海女の島“舳倉島”へ。帰路の船で荒れる日本海を体験、大波をかぶり寄港。

今日の宿は“白米千枚田”近くの民宿、宿では親切に濡れた衣服を洗濯してもらい翌日は気持ちよく出発出来ました。数少ないバスで向かうのは「時国家」壇之浦の戦いで敗れ、能登に流された平家の時忠の子、時国がこの地で豪農となり現存する家屋は、天保2年(1831)から26年かけて築かれた、茅葺入母屋造りの豪邸で一

見の価値ありと、次に目指すは能登半島最先端の禄剛崎。

当時は車の通れる道ではなく、獣道のような道をひたすら歩いて狼煙灯台へ。眺望良く佐渡の島影も見える近さでした。和倉方面行きのバスで今日の宿「葎ヶ浦温泉」へ。宿はバス停から坂を下った海辺の岩盤に建つ長屋の様な宿、波の音しか聞こえない「ランプの宿」でした。今では予約を取るのが難しい人気の宿になっています。

夕食後は、平家の子孫というご主人との会話を楽しみ波の音を子守歌に床につきました。

なお、補足ながら今回の地震では大きな被害はなかったようです。翌日はご主人に近くのバス停まで船で送ってもらい助かりました。バスを乗り継ぎ“見附島”(通称、軍艦島)や恋路海岸等を回って羽咋市役所へ。

各所で「集印したパンフレット」を提出すると記念として「証明書」と「記念品」を戴きました。

記念品は能登の銘木「あすなろの木」で作られた能登



のカギ [名誉観光、能州人の章] と焼印された物で、今でも我が家の玄関を守ってくれています。

この後、金沢に戻り日本三名園の一つ「兼六園」を見学して、その日の夜行列車で帰宅の途に就きました。

この旅で出会った多くの人の親切や優

しさに励まされての思い出深い旅でした。

以上60余年前の事、当時を思い出しながらの紀行です。

その後1992年(H4)10月に姉夫婦と黒四ダム、能登半島一周ドライブ旅行。2018年(H30)10月は妻の両親が眠る永平寺に、結婚50周年の報告を兼ねてのツアー旅行で三度目の能登を訪ねました。

そんな思い出の地が突然の災難に襲われたことに励ましの言葉もありません。一日も早く復旧・復興を心よりご祈念申し上げます。



## 活動報告

### [新春山手七福神巡り]

小川 芳郎

令和6年1月10日集合10時30分、参加者7名、徒歩約7.2km 所要時間約4時間30分。

解散地目黒不動尊15時。七福神巡りは覚林寺(清正公)から瑞聖寺、妙円寺、大円寺、蟠龍寺、瀧泉寺(目黒不動)へと廻った。途中日本庭園を見学のため八芳園に行き、さらに北里柴三郎記念博物館白金へ寄った。

本年7月に新1000円札の肖像になる近代日本医学の先覚者北里柴三郎の業績を再確認するために記念館を訪ねた。1885年11月4日付でドイツ留学の辞令をうけ、1886年からの6年間、病原微生物学の第一人者ローベルト・コッホの下で細菌学者としての研鑽を積み、免疫に関する基礎を学び多くの業績を挙げた。留学期間は5年であったが更に1年間結核の研究をした。1913年、北里の提唱のもと日本結核予防協会が設立された。

1889年、これまで誰も成功できなかった破傷風菌の純粋培養に成功し、翌年その毒素に対する免疫抗体を発見し、それを応用して血清療法を確立した。

1894年、北里は香港で蔓延したペストの原因調査のため現地へ赴き、ペスト菌を発見した。

日本でのペストは1899年以来大小の流行を繰り返したが、北里の指導により予防・治療はもとより、保菌ネズミの撲滅を図るなど国をあげての防疫対策をした結果、被害は最小限に抑えられ、1926年を最後に一掃された。1917年、北里は、慶應義塾大学部医学科の創設に尽力し初代医学科長を務めた。北里は国内の医師会の統一のため、まとめ役を囑望され、日本医師会創設に尽力し1923年初代会長に就任した。



### [神奈川県青少年育成功労者表彰]

境 紳隆会員(川崎地区協議会長)は2月25日神奈川県知事表彰を受けられました。多年に亘り青少年育成に貢献してきた功労によるものです。

現在は川崎第57団VS隊長、神奈川連盟副理事長、川崎市青少年育成連盟理事長の要職を兼任して活躍されています。おめでとうございます。



### 会員募集

当クラブは、活動目的として「より幸福な生涯を究めて会員同士の体験学習から楽しさを味わい、成果を生かすため、地域社会・スカウト運動に参画する」ことを目指しています。

奉仕活動、ハイキング、ディキャンプ、親睦旅行などを通して楽しみながら活動しています。

スカウト経験者以外でも、どなたでもご参加いただけますので、一緒に活動しませんか。

お問い合わせは下記へご連絡ください。

### 連絡先

わたなべ いさお  
事務局 渡部 公

電話 090-5499-1280

E-mail: [ciao.14125@kce.biglobe.ne.jp](mailto:ciao.14125@kce.biglobe.ne.jp)

### 編集後記

- ・季節が少しずれましたが編集会議で討議して「サクラ」特集にしました。誰もが桜に様々な思いがある事を認識しました。今年は例年より早い開花が予想されましたが、何と10日近くも遅れました。自然には現代科学でも予測不能のものが、まだまだあるようです。
- ・タイトル写真は宮城県白石市の“一目千本桜”です。昨年春に撮影しました。今年は満開日が大きく狂ったため予定が外れ、桜撮影旅行は不発になりました。
- ・次号第46号は10月20日発行を予定しています。特集の提案・寄稿をよろしくお願ひします。(渡部)